

1.研修プログラムの名称

形成外科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

形成外科では創傷治療理論に則った洗練された外科手技を用いて、主に軟部組織の疾患や異常を治療します。対象部位は全身の体表面近傍となりますが、特に特殊な軟部組織と硬組織の両方を同時に扱う顔面と手の比重が高くなります。

東京医科大学形成外科では先天奇形から外傷・再建まで幅広く扱っていますが、中でも顔面外傷や手の外傷が多くあります。スタッフの出身大学も多様で学閥はありません。女性医師も活躍しています。

3.一般目標

日常診療の中で診療チームの一員として患者さんに接し、外傷の初療や皮膚縫合法などの基本的手技の習得を目指します。テクニックに偏重せず基本原則の実地応用を重視します。再建手術や広範囲熱傷患者では、研修1年目に学習した「外科的全身管理」を確認します。

4.具体的目標

- 1) 経験すべき診察法・検査・手技
 - 1.全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
 - 2.頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔、口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む）ができ、記載できる
 - 3.骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる
 - 4.単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 - 5.X線CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 - 6.圧迫止血法を実施できる
 - 7.包帯法を実施できる
 - 8.ドレーン・チューブ類の管理ができる
 - 9.局所麻酔法を実施できる
 - 10.創部消毒とガーゼ交換を実施できる
 - 11.簡単な切開・排膿を実施できる
 - 12.皮膚縫合法を実施できる
 - 13.軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる
- 2) 経験すべき症状・病態・疾患
 - 14.外傷について初期治療に参加できる
 - 15.熱傷について初期治療に参加できる
 - 16.皮膚感染症を診察し、治療に参加できる
 - 17.骨折を診察し、治療に参加できる
 - 18.細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）を診察し、治療に参加できる
 - 19.熱傷を診察し、治療に参加できる
- 3) 全科共通項目
 - 20.診療録（退院サマリーを含む）をPOSに従って記載し管理できる
 - 21.処方箋、指示箋を作成し管理できる
 - 22.診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる
 - 23.保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

5.指導体制・方略

指導医、研究医、後期研修医とチームを組んで外来、入院患者の診療を行いながら学びます。

研修医テキストに則って基本的な知識を学習します。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
7:30～	症例検討会					
8:00～					教授回診	
9:00～	全麻手術 回診	局麻手術 教授回診	局麻手術 回診	局麻手術 回診	全麻手術 回診	局麻手術 回診
17:00～	手術検討会	病院研修会				

外来診療は午前・午後（土曜日は隔週で午前中）行なっています。

7.研修活動

8.評価

1) 自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

他者評価表を用いて評価する

研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう

3) コメディカルによる評価

EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項